

<祈りのすすめ>

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」
(マタイによる福音書16:24)

「あなたこそキリストです」と言い表した弟子たちに、イエス様は、「わたしに従ってきなさい」とお命じになります。告白は告白だけで終わりません。告白には服従が続くのです。

けれども、それは決して勝利と栄光の道ではありません。むしろそれは十字架を負う道であるということです。このとき、弟子たちが思い浮かべた十字架は、まだ救いのしるしとしての十字架ではなかったでしょう。それは何よりもまず、当時ローマ帝国が政治犯の処刑に用いていた見せしめの刑罰としての十字架であったはずです。ユダヤ独立運動が盛んであったガリラヤ地方の出身者がその中にいた弟子たちは、すぐそのことに気がついたに違いません。

もしわたしについてくるなら、あなたがたは政治犯と見なされるであろう。疑いの目で見られ、煙たがられ、後ろ指を指され、捕らえられれば十字架刑をもって処刑されることになるだろう。それでもあなたがたはわたしと共に歩もうとするのかとイエス様は問われるのです。

もちろんイエス様はユダヤ独立闘争のリーダーではありません。たとえ弟子たちの中にそう考える者がおり、無理にでも「王」にしようとする者がいたとしても、イエス様は決して武器を取ろうとはなさいませんでした。

けれども、神の国、神の恵みの支配、奉仕による統治を宣べ伝え、証するイエス様の言葉と

振る舞いは、地上の国、人の欲の支配、力と恐怖による統治の中にあっては政治的と見なされざるを得ないということ、そして、ある意味では、いかなる政治的な活動よりも根本的な意味で政治的であることをイエス様は知っておられます。

なぜなら、王の王であるキリストの言葉と振る舞いは、「偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている」という、だれもがそうだと思っている現実が、本来は決して「そうであってはならない」ものであることを明らかにするからです。

そして、キリストに従う者たちの間では「偉くなりたいと思う者は、仕える人となる」ことを通して、神の国、本来の世界の姿が、たとえ僅かではあっても先取りされ、証しされ、目に見えるしるしが打ち立てられているからです。

それが「この世があなたがたを憎む」理由です。だからこそイエス様は十字架という、政治的でしかありえない言葉を用いられるのです。

けれども、十字架への道は同時に復活と永遠の命への道です。「死にて葬られ」たキリストが「死者のうちより復活し」、「全能の父なる神の右に座し」ておられることを私たちは知っています。そしてそのお方が「かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審き給」う、歴史の完成の約束が与えられています。この恵みと約束の中にあって、私たちは、喜びと感謝と讃美のうちに主イエス・キリストに従ってゆくのです。

<祈り> 王の王なるイエス・キリストの父なる神様、「ポンテオ・ピラトのもとに苦難を受け、十字架につけられ」たお方こそが、真の王であり歴史の審判者であることに感謝します。

芳賀繁浩（はがしげひろ；大会靖国神社問題特別委員会委員、豊島北教会牧師）

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす（22）

（川越弘、かわごしひろし；大会靖国神社問題特別委員、沖縄伝道所牧師）

Q21 「天皇問題」について今後に残された課題はなんですか？

A 万物は、天にあるものも地にあるものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあつて造られ、御子によって造られ、御子のために造られました（コロサイ1章16節）。わたしたちは、この世にあつて遣わされた場で、キリストの主権に仕えて生きています。いかなる権力がその位置を犯そうとしても、決して譲ることはできません。

国家権力によって偶像礼拝が奨励されたり、「天皇」や、国家や、民族やその他あらゆる被造物を神格化したりする風潮が広がることを認めることはできません。

また、人は神のかたちに創造され、神を目指して生きる自由を与えられています。ですから、人間に価値の優劣があるように扱ったり、主体的に生きようとする人間の自由の権利を侵すようなありかたを放っておくことはできません。

とくに国民の信仰・思想の自由を侵害して元号の法制化を図り、「日の丸・君が代」を公教育機関で強制し、「象徴天皇」をも神格化しようとするような動きが目立ってきています。キリスト者は信仰の立場からこれらを黙認することはできません。

新 Q21-1 「天皇問題」の今後に残された課題について、もう少し具体的に語ってください。

A 憲法第一条で規定された「象徴天皇の国家機関」という問題点を指摘せねばなりません。ときの政府権力から天皇自身が完全に自由となることはあり得ません。極右勢力は、人民を統制し服従させるかつての絶対主義神権天皇の復活を望んでおり、「象徴天皇」として「国民の心の一体化」という枠内で、政府権力の言うままに動く天皇を求めてきたのです。一見矛盾に見えるものの、象徴天皇は政治の最高の道具です。「政府権力の言うまま」とは、天皇の公的行為の限りない拡張（憲法七条違反）であったのです。

新 Q21-2 上皇明仁と上皇后美智子は、国民に寄り添う「象徴」としての姿勢を取り、開かれた皇室と徹底した平和主義者ではなかったのではないですか。

A 上皇明仁が行ってきた「象徴としての務め」は、「戦後を終結する努力」と「災害被災者や公害病患者など周辺社会の人々との距離を縮める」ことであり、「戦後体制の肯定」をしたことです。「戦後を終結する」とは、日本近代以来の侵略と植民地支配

と戦争がつくりだした「国家責任、天皇責任をなきものにする」ことです。上皇明仁は、天皇であったとき広島・長崎・沖縄を訪問し、タイ・マレーシア・インドネシア・中国を訪問しました。彼は「痛切な気持ち」を表しても、一度も戦争犯罪を謝罪することはなかつたのです。「痛切な気持ち」を表して国家と天皇の責任をとったように見せかけて「戦後が終わった」としたのです。こうして、自衛隊海外派兵の地ならしをしたのです。「象徴としての務め」の解釈、また内容をめぐって安倍前内閣や極右勢力との間に齟齬があったことは事実としても、概ね「二人三脚」としてやって来たのです。

新 Q21-3 天皇徳仁はどうなんですか。

A 彼も同じです。天皇徳仁は、菅義偉首相の強い要求もあつてか、仲井真弘多元沖縄県知事に旭日大綬章を授与しました。沖縄では、70%に近い辺野古基地反対の人々の意見を投票で明らかにしたにもかかわらず、辺野古の海の埋立てを承認したことへの褒賞です。それは、沖縄の人民の自決権をはく奪するものと言わねばなりません。これも、時の政権と天皇の「二人三脚」政治です。

日本民族の血とは何か

小塩海平（こしおかいへい；大会靖国神社問題特別委員会委員長、東京告白教会長老）

戦意を昂揚し、植民地支配を正当化するためには民族意識を駆り立てる必要がある。日本においてもさまざまな概念装置が考え出され、例えば、大和魂とか、武士道というような言説が生み出された。もともと漢心（からごころ）に対するものは大和心（やまごころ）であって大和魂ではなかったし（『展示される大和魂』森正人、2017、新曜社）、武士道も明治以降に作られたイメージにすぎない（『武士道の逆襲』菅野覚明、2004、講談社現代新書）。そもそも民族という漢字語自体が、1880年代に日本で作られ、東アジアに伝播した言葉であった（「日本における民族の創造—まつろわぬ人々の視点から」岡本雅亨、2008、アジア太平洋レビュー）。いまだに「純血な日本民族」という空想が亡霊のように残存し、在日外国人などに向けられるヘイトスピーチを生み出しているのは、はなはだしい時代錯誤である。

「純血な日本民族」という言説が登場したのは、日中戦争の頃である。1939年11月14日の報知新聞は「大和民族の純血を護れ」という見出しで、法政大学の高木友三郎博士の主張を紹介し「劣等素質の支那民族と進化の上級な日本民族が結婚すると結局において両民族が劣等素質になってしまう、これはヒトラーがつとに提唱している"血の純潔"を他山の石と見ても明らか」だと述べている。のちにナチス・ドイツの食糧農業大臣となるリヒャルト・ヴァルター・ダレーによる『血と土』（1930）に触発された主張だろう。この本が邦訳されたのは1940年のことである。

しかし、アングロサクソン民族とか、ユダヤ民族とか、大和民族の血統などといってみても、血液学的にはナンセンスである。実は、すでに1900年にオーストリアのカール・ラントシュタイナーが血液に型があることを発見しており、卑近な例で恐縮だが、例えば私の家族の場合、私はAB型なので父親のA型の血液や母親のB型の血液を輸血できるが、両親は私の血液を受け入れることができない。日本民族どころか、ごく小さな家族の中でも異なるタイプの血が混在しているのである。また、私はディエゴ式（a+b-）という日本人では500人に1人というまれな血液型なのだ

が、これは新生児溶血性疾患で息子を失ったベネズエラのディエゴという女性に因んで名付けられた型である。自分の両親よりも、今まで会ったことも見たこともないベネズエラ人と血縁が深いというのだから、驚きだ。

ベネズエラのカラカスに住んでいたディエゴ夫妻に生まれた初子は、黄疸がひどく、3日後に亡くなった。後日、原因を調べるために母親の血清に父親の赤血球を反応させたところ強い凝集反応が起こり、1953年、ABO型ともRh型とも異なるディエゴ型と命名された。当初はディエゴ家に関連した内輪の血液型と考えられていたが、のちに白人や黒人にはほとんど認められない一方で、カリブ“インディアン”やブラジル“インディアン”の中にはある程度見いだされ、やがて中国人や日本人などのモンゴロイドには比較的存在することが明らかとなった。コンキスタドールの蛮行によって白人、黒人、黄色人が重層的に混交するようになったベネズエラだからこそ、このような人類史的な発見がなされたのだ。

人の血液型は、詳しく調べれば千差万別の個性があり、カメ、サル、ブタ、ウサギ、ウナギなどの動物の血液やドリコスマメやエンジュの種子抽出液などとの相性によって詳しく分類することが可能である。ちなみにRhの血液型はアカゲザルとの血縁関係をプラスかマイナスで示したものである。

動物にもそれぞれ固有の血液型が存在する（『人とどうぶつの血液型』近江俊徳、2018、緑書房）。霊長類の場合、ニホンザルはB型とO型、ゴリラはB型のみ、オランウータンはA型、B型、AB型、O型がいずれも存在し、チンパンジーはほとんどがA型で若干のO型が存在するという。なお、血液型の分析によってヒトの進化を解明しようとする試みは、ほぼ失敗に終わっている。

私たちに必要なのは、日本民族の血というような空想の産物ではなく、私たちが真に生かすキリストの血にほかならない。過去の誤った言説に惑わされず、キリストの血にあずかることによってこそ、あらゆる違いを超えた一致が与えられることを覚えるようにしよう。

○原発事故で天皇避難を打診

2011年3月11日に発生した東京電力福島第1原発事故の直後、当時の民主党の菅直人政権が、天皇在位中の上皇さまに京都か京都以西に避難するよう非公式に打診していたと、元政権幹部が29日までに証言した。宮内庁側は上皇さまのご意向として「国民が避難していないのに、あり得ない」と伝え、政権側は断念したという。複数の元官邸幹部は皇位継承資格者である秋篠宮さまの長男悠仁さまの京都避難も検討したと明かした。（東京新聞：2020.12.30）

○男系継承が最優先

菅義偉首相は3日のニッポン放送のラジオ番組で、安定的な皇位継承の在り方について「日本は今日まで男系継承で脈々とつながってきている。そこについては極めて重いものがある。現状においてはまず男系継承を最優先にしていくなさだろう」と述べた。憲法改正に関しては安倍晋三前首相の取り組みに触れ、「私もしっかりと挑戦していきたい」と語った。ラジオ番組は昨年12月18日に収録された。（時事通信：2021.01.03）

○元慰安婦訴訟 外交を通じた問題解決を

韓国・ソウル中央地裁が元従軍慰安婦訴訟で、日本政府に賠償を求める判決を出した。悪化している日韓関係にさらに深刻な影響を与える可能性もある。冷静に対応し、外交解決の道を探るべきだ。裁判の争点は「主権免除」だった。国家は他国の裁判権に服さないという国際法上の原則で、長く絶対視されてきた。近年、国家の商業的行為や人道問題などには適用されないとの考えも広がっている。その範囲はまだ明確ではない。

今回の判決は、慰安婦被害について「反人道的な行為であり、主権免除の適用外」だとし、日本政府の責任に踏み込んだ。

日韓間ではこの問題を巡り、二〇一五年に合意に達している。日本が責任を認め、元慰安婦の支援事業に十億円を拠出した。不十分な部分があったにせよ、両国が歩み寄った結果で、実際に支援も行われた。今回の判決は、この合意を何も評価していない。これでは政府間の信頼関係がなりたない。

この判決の背景には、文在寅（ムンジェイン）政権の姿勢がある。被害者の声が反映されていないとして一五年の合意を否定し、財団を解散した。

元徴用工を巡る韓国の裁判でも、これまでの解決努力を考慮しない判決が出た。問題をこじらせないためにも、過去の合意に立ち返り、補充する方が望ましい。（東京新聞：2021.01.12）

*2015年の合意には、「この問題が最終的かつ不可逆的に解決されることを確認する」という文言が添えられている。実際に、苦悩し続けている人を前にして、このような言葉遣い出来ること自体が異常ではないだろうか。

○陸軍登戸研究所、暗部に迫った高校生

戦時中、極秘に特殊兵器を開発したとされる通称「陸軍登戸研究所」。謎に包まれていた研究所の「暗部」を掘り起こしたのは、1980年代からの高校生や市民らによる地道な活動だった。約30年の活動記録を展示する企画展が、明治大学平和教育登戸研究所資料館（川崎市多摩区）で開かれている。コロナ禍でしばらくはオンラインでの開催となる。（朝日新聞：2021.01.18）

793号ヤスクニ通信 2021年2月14日 発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会 発行人・編集・発行 小塩海平（東京告白教会）

<編集後記> いくつかの都府県で再び緊急事態宣

言が発出された。終わりの日を待ち望む教会にとって、緊急なこととはいったい何であろうか。

(K.K.) 追記：先日、各教会・伝道所に配布した『2019年度靖国神社問題全国協議会』の中に誤りがありました。お手数ですが、16ページ、下から4行目の「犠牲」を「擬制」に訂正して下さい。